

令和6年度
全国学力・学習状況調査
指導方法等の改善計画

呉市立郷原小学校
(郷原中学校区)

全国平均値との差		
	国語	算数
呉市教育振興基本計画〈指標〉	+6.0	+5.0
令和8年度	—	—
令和7年度	—	—
令和6年度	+2.3	+2.6
令和5年度	+0.8	+0.5
令和4年度	-0.6	-5.2

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

◎・・・各学校 ◇・・・中学校区

国語 話すこと・聞くこと 書くこと 読むこと 言葉の特徴や使い方 情報の扱い方 我が国の言語文化 ● 全国平均 ● 県平均 ● 本校 本校 70% 全国 67.7% 県 69%	重点課題	◎ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることに課題がある。(設問3二(1)【読むこと】(平均正答率66.9%)(本校-5.9%)) ◇ 意見と根拠など情報と情報との関係について理解し伝えることに課題がある。【読むこと】
	改善の方策	◎ チャレンジタイム等で長文の読解を定期的に行う。言葉の意味や助詞などを意識して読解する練習をする。本に触れ、長文を読む機会を増やすなどして、語彙力を増やす。 ◇ 複数の情報の関係や意図について考え、説明する機会を設ける。
	検証	◎ 標準学力学習状況調査(12月)の【読むこと】の項目の正答率の全国平均を上回る。 ◇ 標準学力学習状況調査(12月)の【読むこと】の項目について、全学年の平均ポイントが昨年度より上回る。
算数 数と計算 図形 変化と関係 データの活用 ● 全国平均 ● 県平均 ● 本校 本校 66% 全国 63.4% 県 64%	重点課題	◎ 球の直径の長さや立方体の辺の長さの関係を捉えて立方体の体積を求める問題のように複数の図形を含む問題に課題がある。(設問3(3))【図形】(平均正答率36.5%)(本校-4.8%)) ◇ 式の性質を理解して、順序立てて計算することに課題がある。【数と式】
	改善の方策	◎ 問われていることを正確に捉えることを意識して、既習事項を使った復習問題をチャレンジタイム等で定期的に行う。 ◇ 具体物を準備して視覚的に説明する機会を設ける。また、算数・数学に関する用語を正確に活用できるように、普段から用語を正しく使って児童生徒同士が説明をし合う活動を取り入れる。
	検証	◎ 標準学力学習状況調査(12月)の【図形】の項目の正答率の全国平均を上回る。 ◇ 標準学力学習状況調査(12月)の【数と式】の項目について、全学年の平均ポイントが昨年度より上回る。

【来年度に向けて】

○ 国語科の標準学力調査の「読むこと」の正答率については、1・4・5年生が全国平均を上回った。「知識・技能」「思考・判断・表現」の2項目について昨年度より平均ポイントが上回ったのは、1・4年の2つの学年だけであり、同一学年の伸び率が鈍化していることが分かった。「書く」項目については、研究により「表現力」の向上に取り組み、力を伸ばす学年もあったが、個人差が見られるため、振り返りを書くことを通して、「書く」ことに慣れ、苦手意識をなくすることができるようにしていく。また、キュビナを活用して、漢字や文法、語彙を増やしていけるよう対策を講じていく。

○ 算数科の標準学力調査の「図形」の項目について2年生は出題がなかった。出題のあった他学年では、1・6年生が全国平均を上回った。「数と計算」の項目については、全国平均を上回ったのは、1・4年の2つの学年だけであり、算数科も同一学年の伸び率が鈍化していることが分かった。算数科では、正答率30%未満児童が全校で13名おり、学力の個人差が大きいことや、基礎的な学力に課題が見られる学年が多い。帯タイムに継続的にキュビナを活用する等、基礎学力の定着を図る必要がある。そして、小学校は来年度も、重点的に算数科の授業改善に取り組んでいく。